

- (1) 震度6強にしてはRC造建物の上部構造の被害は少ない。地盤の影響であり、従来から指摘されていたことであるが、今回はより顕著である。
- (2) 軟弱地盤上では、地盤の変形によって上部建物が上下左右に変位している。この結果EXJ.に大きな損傷を受けている建物が多い(例えば第一中、7/17の報告)。これも従来の地震被害と同じ指摘事項であるが、今回はより顕著である。そもそもEXJ.の間隔は固定地盤の上で建物が水平方向のみの1次モードを考えているので、地盤が良好な場合はよいが、軟弱地盤ではそれに地盤の変形分をも加えてクリアランスを決める必要もあるかもしれない。いずれにせよ、EXJ.の間隔も調査事項。
- (3) 煙突の被害があった。(国交省調査中)
- (4) 中越地震で小破の被害を受けて、補強せず今回のより大きな被害を受けた建物がある(長岡市下小国小、7/18の報告)。
- (5) 階段室が傾いた被害があった(第五中、7/18の報告)。
- (6) 中越地震で被害をうけ、その後耐震補強をおこなっているが、もともとの構造計画が悪いために、中越地震と同様な被害を受けた建物がある(柏崎翔洋中等高、7/19の報告)。構造計画の悪いものに対する補強の考え方を整理する必要がある。
- (7) 耐震化の状況(あるいはIs値)、補強の効果などを整理しておく必要がある。被害は少ないが、どのようなRC建物が存在していたのか。
- (8) 東本町の倒壊した呉服屋のならびに大破した建物があり、SかRCか確認していませんが、中に鉄筋がみえるとのことです。(未確認)